



心と得天真

～心として天真を得る



山口市立大歳小学校
学校だより
令和8年3月

感謝のバトンがつなぐ 大歳小の誇り！

校庭の梅がふっくらと花を咲かせ、春の足音が聞こえてくる季節となりました。先月の参観日には、多くの保護者・地域の皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。1年間の集大成として、自分たちの成長や夢、総合的な学習で学んだことなどを、自信をもって発表する子どもたちの姿が、とても印象的でした。

さて、この時期は、学年のまとめの時期であると同時に、次のステージへ向けた大切な準備期間でもあります。

そんな中、2月27日には、「6年生への感謝の会」が開催されました。笑顔と感動に包まれた心温まる大変素敵な会となり、この会を通して、本校の子どもたちの「心の成長」と「絆」を改めて強く実感しました。

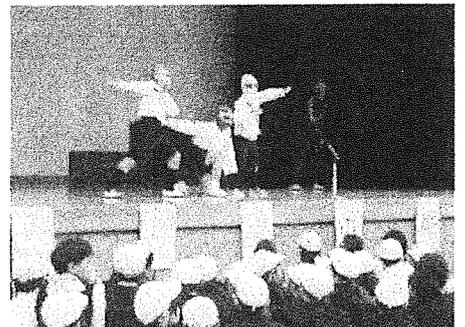
今回の会を企画・運営したのは、次期リーダーである5年生です。6年生への感謝をどのように形にするかを真剣に考え、休み時間に何度も練習を重ねながら全校をリードする姿からは、最高学年へのバトンを受け継ぐという強い決意と意欲が感じられました。



なかよし班活動や、全校で行ったゲームでは、学年を超えた笑顔がはじけていました。下級生からの「歌」と「ダンス」のプレゼントでは、「ありがとう」というまっすぐな思いが体育館いっぱい響き渡りました。一生懸命に表現する下級生と、それを優しさで温かさあふれる眼差しで受け止める6年生。その光景こそが、大歳小で大切に受け継がれてきた「思いやりの心」そのものだと感じました。

6年生からのお返しの「エール」と「歌」は、それまでの和やかな雰囲気を一瞬にして引き締める、まさに圧巻でした。凛とした立ち姿、体育館の空気を震わせるエールと歌。その姿は、下級生の目に「憧れのヒーロー」として深く刻まれたはず。6年生がこれまで築いてきた「本校の誇り」というバトンは、確実に下級生たちの手に受け継がれました。

6年生にとっては、卒業まで残りわずかな日々となりました。この学び舎で過ごす一日一日を、そして、一分一秒を、自分を支えてくれる仲間や思い出を慈しみながら、大切に過ごしてほしいと願っています。そして、下級生の皆さんは、6年生が残してくれた素晴らしい伝統を胸に、新しい一歩を踏み出してほしいと思います。



今年度もいよいよ残り1ヶ月です。どの学年の子どもたちも「よい終わり」を目指して歩んでいます。学校における「よい終わり」とは、次のステージへ向かうための「最高の準備」が整うことだと考えています。この1ヶ月、今の学年でやり残したことはないか、仲間に伝えたい思いはないか。一人ひとりが自分自身と向き合い、胸を張って次の扉をたたけるよう、教職員一同、最後まで全力で支えてまいります。

「感謝」で結ばれたこの「絆」がある限り、大歳小の未来は明るい！そう確信させてくれた「感謝の会」を糧に、最高のフィナーレへ向けて共に歩いていきましょう！

校長 門 岡 裕 二